

町田市議会議員・ネット発信NO.1

吉田つとむ

YouTube動画 900 万回再生目前!



工事現場用昇降アシスト装置(昇降力)の一人で操作体験

東京ビックサイトの展示会のテーマは、「メンテナンスとレジリエンス(回復力)」というものでした。建築現場における人の作業を軽減させる機械が様々にありましたが、メンテナンス分野などで労働力不足を補完する器具や装置に注目しました。トーヨーコーケン株式会社のブースでは、昇降アシスト装置(昇降力)の体験をさせていただきました。下記の連続写真にあるように初めてのことでとても緊張しています。しかし、大変楽しい現場体験でした。



写真は左から順に上がり、右は降りていますが、利用者が自身でリモコン操作します

利用者の昇り降りの荷重変化を検知し、自動的にホイスが昇降をアシストするという構造に作られていました。工事現場で簡単に設置できる構造で、専用のレールなどは必要ないとのことでした。大工場や物流倉庫では巨大システムの全自動化、無人化が進んでいますが、「建築現場」などでは個々に形や構造が異なる例が大半で、特にメンテナンス分野では全部の条件が異なる例が大半です。そうした現場ではいかに省力化するか、作業者の安全を確保するかが問われていました。

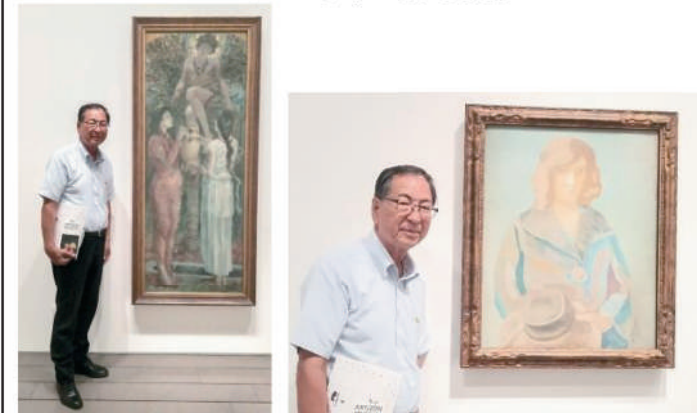
◎町田市議会は定数36名(1名欠員)。大多数はそれぞれの会派に所属しますが、会派に属しない諸派議員が5名です。吉田つむは、「無所属」という3名の会派に所属。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。

その会派「無所属」の3名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。

美術館収蔵品:青木繁と坂本繁二郎の友情

今年の7月、ブリジストンタイヤの本拠地である福岡県久留米市の石橋文化センター(ブリジストンが久留米市に寄贈した施設)内の石橋正二郎記念館で、小学校の同級生であった友人同士の青木繁(光明皇后)と坂本繁二郎(自画像)の2作品を鑑賞しました。

青木繁は若くして亡くなり、その作品の散逸を恐れた坂本繁二郎が、すでに世界的な事業家として成功していた同郷の石橋正二郎に青木繁の作品を収集してくれるように依頼したものです。その要請に応じて、石橋正二郎は二人の作品をコレクションの中に加え、特別な存在にしています。その石橋コレクションは東京のブリジストン本社ビル内のアーティゾン美術館(旧ブリジストン美術館)に収蔵されています。この二人の作品も全部がアーティゾン美術館によって管理するものとなっていますが、下記の2点が展示。そこで、この8月にはアーティゾン美術館を訪ね、企画展とコレクション展を鑑賞しました。



展示品の青木繁(わだつみのいろこの宮)と坂本繁二郎(帽子を持てる女)の作品。

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



市長の仕事に関して始点と終点の基準は

町田市は各部門の責任者である部長職に対して、部長の仕事に関する目標とその進捗状況を明らかにさせています。



それでは、市長は自分の仕事に関してその目標設定を行い、かつ、その進捗状況を明らかにしているのでしょうか。一般に考えられるものには、選挙公約(マニフェストと呼ばれることもある)、あるいは毎年、第一定例議会冒頭で発表される「施政方針」があると思いますが、それ以外にたびたびおこなう記者会見での事業報告、あるいは町内会との「市政懇談会」での約束などが考えられますが、それらがどのような方法で発表されるのか、あるいはそれらの進展状況はどのようにして公表されていくのでしょうか。特に、事業や人事組織の改定などがどのようにスタートし、どの時点で目標達成(ルーチン化、あるいは設定事項の廃止)が行われるのかを明らかにしてもらいたいと思います。

市長は5期20年目を目前にしていますが、まだまだ、これからも新しい施策を打ち出したいと思っているのか、それともこれまでに打ち出した施策を自分で仕上げたいと思っているのか、そうした事柄を具体的に聞き出すのが、議員の仕事だと理解しています。

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

交通安全推進運動とその協議会の開催

8月に第2回交通安全推進協議会を開催しました

9月21日(日)から30日(日)までの10日間にわたって、秋の全国交通安全運動が実施されます。「交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを守る習慣となることを普及させる」と、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することが主題であり、交通安全協会のボランティア活動や、警察車両と警察官による街頭指導が行われます。歩行者の目立つ色の衣服の着用促進、「ながらスマホ」の根絶、自転車・電動キックボードの交通ルール順守とヘルメット着用促進などが取り組まれます。

交通問題で一番大きな変化は、自転車の交通違反の反則金が増えられます。違反を指摘されると、反則金納付書が渡され、それを期限内に納付すると、刑事処分の対象にされないというものです。ただし、基準によって違反点数が決まり、自動車免許の取得に不利益な行政処分が課せられます。もっとも、これまでも自転車の運転も危険運転などの重大な違反は検挙などがありえたものですので、事前に公示された明快な基準が適用されるというものです。

私は重大事故を減少させるうえで、ヘルメット着用義務化を自転車にも広げる必要があると考えています。



*会議終了後、傍聴のインターン生と記念撮影

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ 個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
55 期生が終了しました。

インターン体験記⑤-1 岡田愛海

今回訪問した日本青年館では、全国の青年団のお話をまとめた広報誌について、日本青年団の歴史から順に説明していただきました。

今まで伺ったインターン先で発行している広報誌では、行なった内容や開催情報を記載する、「情報を伝える」と言うことがメインに置かれていました。しかし、日本青年館が広報誌を発行する際の理念には、「情報を伝えるだけでなく、人を繋ぐ情報を広める」というものでした。八地方区分毎に一都道府県で行われた青年団の活動内容を毎月まとめ上げ、その広報誌を通して他県の活動を全国の青年団へ届けています。他の青年団での活動を参考に新たな活動をやってみたいと思えるよう、活動の報告だけでなく思いも一緒に記事にする、そのことへ重きを置いていると仰っていました。

また、広報誌を作成するだけではなく、それを告知する方法や紙媒体以外で冊子を広める手段なども、これからやっていきたいことなのだとおっしゃって言っていました。紙の高騰化に加え購読者が減少しているさ昨今では、紙冊子を大量印刷できないというお話を、日本青年館でもされていました。SNS や PDF を活用しているものの、もっと気軽に目を通しやすい媒体の活用を目指したいが、それに至るまで多くの課題が待ち受けているとのことでした。あらゆる課題を乗り越えて広報誌は発刊されている、そのことを改めて実感するインターンになりました。



横浜美術大学 4 年生 岡田愛海(第 56 期生)

◎吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、2025 年 3 月末までに 111 名が参加しました。

◎ 第 55 期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4 月 1 日から研修医として社会人。

◎次回のインターンシップは、2025 年夏季第 56 期生の募集を開始しました。

インターン体験記⑤-2 岡田愛海

アーティゾン美術館(旧ブリジストン美術館)では、「彼女たちのアボリジナルアート オーストラリア現代美術」展を鑑賞しました。



今回のレポートでは、作品を展示している展示会場の作り方に注目して書きます。アボリジナルとはオーストラリア大陸の先住民達のこと指します。そのアボリジナルのアーティストが制作した作品を展示しているこの展覧会では、静けさとゆったりとした雰囲気を保つ展示形式になっていました。全体的に照明を落とし、作品との間をゆったり空けることで、自然と会場を静寂に包んでいました。また、ライトを作品へピンポイントに当てることで、視線を誘導すると同時に、神秘的な雰囲気を纏わせることに成功していました。出展されたアートは自然と繋がりを感じるものが多くあり、アボリジナルの住む場所から生み出される静寂というものを意識して、展示会場を考案したのではないかと、全体を通して感じました。作品を最大限活かすのは展示空間です。展示場所やライティングの調整次第で、美術作品は全く違う表情になります。展示会場とは作品に込められた様々な思いを鑑賞者に感じさせる大事な舞台装置であり、情報媒体でもあると私は考えています。

一見広報物とは関係ないように見えても、誰かに何かを伝える、その役目を展示会場は担っているのです。展覧会に行った際、是非とも展示空間も意識して見て頂きたいと思い、今回のレポートを作成いたしました。

横浜美術大学 4 年生 岡田 愛海(第 56 期生)

インターンシップで若者育成の貢献
町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠
かさずに続いている

インターン体験記①-1 渡部結衣

初回のインターンでは、稲城市の市議会議員である、いそむらあきこ議員に、稲城市内に向き、お話を伺いました。いそむら議員は二人のお子さんを育てながら、時にはお子さんをおんぶをして選挙活動に臨まれた経験を持つ、いわゆる「ママ議員」です。初めてのインターンで緊張していた私に、いそむら議員は終始にこやかで元気よく接してくださり、すぐに安心して会話を始めることができました。私といそむら議員は、同じ東京都立成瀬高等学校の出身であり、その共通点から、アイスブレイクとして成瀬高校での思い出や大学生活のエピソードについて語り合いました。

中盤では話題が選挙や政党動向、さらには期待する議員像といった専門的な内容に移り、吉田議員も交えて意見交換を行うことができました。終盤には、市政と国政の違い、稲城市が抱える独自の課題や政策の方向性、財源の使途や確保の方法など、実務感のあるお話を詳しく伺いました。市政の現状や課題が具体的に見えると同時に、地方政治に携わる意義ややりがいについて深く考える機会となりました。同じ女性として政治家を志す私にとって、この対談は大きな励みとなり学びの多い、有意義な時間となりました。



大妻女子大学 1 年生 渡辺 結衣(第 56 期生)

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。

◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が好評です。

◎一般企業就職が最大で、次いで公務員、教職もあり。弁護士が 3 名、医師も 1 名。

インターン体験記①-2 渡部結衣

今回のインターンでは、旧白洲邸「武相荘」を訪問しました。私自身初めて訪れる場所であり、町田にこのような歴史的・文化的価値のある施設があることに大変驚きました。「武相荘」は、白洲次郎氏と妻・白洲正子氏が戦時中に疎開し、その後も余生を過ごした邸宅です。白洲次郎氏は議員ではありませんでしたが、当時の首相・吉田茂氏により、GHQ との交渉を担うという重要な役職に任命された人物です。施設名の「武相荘」には、「武蔵国と相模国の境に位置する」という地理的特徴と、「無愛想」という言葉を掛け合わせたユーモアが込められているとのことでした。



大妻女子大学 渡部 結衣(第 56 期生)

敷地に入ると、竹林や灯籠などの美しい日本庭園風景が広がり、厳かな気持ちになりました。また、白洲次郎氏が所有していた自動車美しく保存されており、来館者の多さからも全国的な関心の高さがうかがえました。ミュージアム内では、白洲正子氏が収集したガラス陶器や、実際の日本国憲法改正案などを拝見し、その歴史的価値に強く圧倒されました。

今後は、この経験を通して得た歴史的視点や地域文化の尊重を、自身の学びや将来の活動に生かしていきたいと考えました。短時間ながら多くの発見があり、大変有意義で心に残る体験となりました。